

平成 26 年度村民意見交換会概要報告（父島）

本年度の意見交換会は、前回の会議で村民の皆様の関心の高かったネズミとオオコウモリの対策をテーマに開催しました。行政側から取り組みの現状と今後の方針を報告した後、村民の皆様の意見をうかがいました。父島村民意見交換会で発言された内容について、テーマごとに「主な意見・課題」と「今回のとりまとめ」として以下にまとめました。今回いただいた意見については、早い段階で「報告会」を開催し、村民の皆さまへ対応方針などをフィードバックする予定です。

なお、本会議には科学委員会委員長の大河内氏も同席されました。委員長は、本会議に先立ち島内の農業者の畑を視察し、早急なネズミ・コウモリ対策の必要性を再認識され、科学委員会としても対策の進展をバックアップしていく意向を述べられました。

1. ネズミの被害と対策について

【主な意見・課題】

- 育てているバナナ、レモン、パッションフルーツが、ネズミのせいで全滅した。被害は補償していただきたい。
- ネコは、生態系サイクルの中に組み込まれ、バランスを保っていた。ネコを捕獲したのは間違いだったと思う。
- ネズミが増えたのは、ネコが減ったからではなく、近年、大きな台風が来ていないため山にネズミのエサが豊富にあるからだと思う。
- 殺鼠剤を全家庭に配って一斉に撒いたらどうか。
- 私は有機農業を目指しており、殺鼠剤もできれば撒きたくない。
- 対策に一貫性がない。住民の意見に対応しつつ、真剣に対応してほしい。
- 殺鼠剤で死んだネズミは、ウジやハエがわき、匂いも不快である。

今回の取りまとめ

○行政機関の回答は以下のとおり。

- ・ネコとネズミの因果関係は明確になっていないが、対策をとらないわけではない。行政間で連携し、山城、里域における対策を同時に進めていく。
- ・個別の被害に対する補償は、行政の事業としては対応できない。公平性を保ち、皆に平等な対応を検討する。
- ・集落内に殺鼠剤を散布するには、人やペット等への影響を検討する必要がある。また、撒き続けるとそれに抵抗をもったネズミができてしまうため最良策ではない。守るべき農作物、希少種の囲い込み、環境を清潔にする等の対策も合わせて行っていく。

2. オガサワラオオコウモリ、その他について

【主な意見・課題】

- 世界遺産登録後、山にコウモリやハトのエサがなくなったので、集落に出てきたと思う。
- ヒヨドリよけのネットを張っているが、メジロが網をくぐって中へ入り、トマトが全て食べられてしまった。
- メジロが増加し、これまで食べなかったライチ、マンゴー、トマト等の作物を食べるようになった。
- メジロは増えたので、捕獲禁止を解除し、捕獲してはどうか。
- ウスカワマイマイが増殖し、葉や芽を食べられてしまう。駆除方法はないだろうか。

今回の取りまとめ

○行政機関の回答は以下のとおり。

- ・メジロの捕獲は一律禁止となっている。
- ・ウスカワマイマイの殺虫剤は残留性が高いので、使用しない方がよい。

平成 26 年度村民意見交換会概要報告（母島）

本年度の意見交換会は、前回の会議で村民の皆様のご関心の高かったネズミとオオコウモリの対策をテーマに開催しました。行政側から取り組みの現状と今後の方針を報告した後、村民の皆様のご意見をうかがいました。母島村民意見交換会で発言された内容について、テーマごとに「主な意見・課題」と「今回のとりまとめ」として以下にまとめました。今回いただいた意見については、早い段階で「報告会」を開催し、村民の皆さまへ対応方針などをフィードバックする予定です。

なお、本会議には科学委員会委員長の大河内氏も同席されました。委員長は、本会議に先立ち島内の農業者の畑を視察し、早急なネズミ・コウモリ対策の必要性を再認識され、科学委員会としても対策の進展をバックアップしていく意向を述べられました。

1. ネズミの被害と対策について

【主な意見・課題】

- ネズミはここ数年で急速に増えたと感じる。ハウスの網に穴をあけて入るようになった。傷ものは、売れないので困っている。メジロやメグロ等の鳥もハウスへ入ってくる。
- 農協の殺鼠剤販売個数は予定数で販売しており、実際の需要はこれより多いはずだ。
- 殺鼠剤補助は、年度の変わり目に使用できず、困る。東京都に費用を出してもらえないか。
- ネズミは 1、2 年ごとに増えるサイクルがあると実感している。
- 殺鼠剤の継続散布で低密度化できるなら、周辺も含め継続的な事業化をはかつては。
- 中ノ平農業団地は、周囲の山域農地であるため、周辺を含め全部を囲い、中に定期的に殺鼠剤を撒くというのはいかがでしょうか。
- ネコ対策とネズミ対策はセットで進めてほしい。
- 施設農産物対策で、高圧電流を流すワイヤーを設置できないだろうか。
- ネズミの生態、生活形態、ほ場での動き等を研究し、効果的な殺鼠剤の撒き方（置き方、撒く時期等）を農業者に伝えていただきたい。
- 森と集落のネズミ対策は、一緒に考えていくべきである。
- 脇浜にネズミの巣ができ、カメの卵を食べる被害が出ている。対策補助はないか。

今回の取りまとめ

○行政機関の回答は以下のとおり。

- ・ 殺鼠剤の補助量については、行政側で再検討する。（小笠原村）
- ・ 東京都にも相談しているが、世界遺産名目の予算でやりくりするのは難しい。
- ・ 農地周辺の森林を含めた殺鼠剤散布についてはこれから検討を行うが、速やかに決めていく。
- ・ 殺鼠剤の散布は、どういう制度に落としこめるか行政として検討する。
- ・ 経費の問題については、科学委員会で助言・提言いただく予定である。
- ・ 電気を用いた対策は、子どもが触れる場所に設置する場合は安全対策を考える必要がある。ハウスは、裾部対策、網、ネズミ返し、電気の 4 つを組み合わせる方針である。
- ・ ノネコ対策は、受け入れ側が必要なことから、一挙には進められない。対策エリアを区切りつつ、ネズミ対策と歩調を合わせて順次進めていく。
- ・ 小笠原村は、当面は殺鼠剤購入費補助を行う。
- ・ 環境省は、山域での対策ノウハウを人里に適用するなど、協力体制のあり方を検討する。
- ・ 東京都は、農薬の散布の仕方について、亜熱帯農業センター、農業試験場と相談する。
- ・ 脇浜のネズミ対策は対応策を検討する。

2. 兄島等について

【主な意見・課題】

- 兄島アノール対策のため、これまで実施してきた対策の予算が削られ、元の状態に戻ってしまわないか不安である。
- こうした緊急事例に対しては別途予算を組み、従来の事業は継続させてほしい。
- アノールを不妊化することはできないのか。
- 姉島で、オガサワラカワラヒワがネズミ被害を受けており、絶滅が危惧される。

今回の取りまとめ

○行政機関の回答は以下のとおり。

- ・ 兄島アノールは、対策可能な最後のタイミングであり、緊急事態として対策を継続している。トランプは昆虫にダメージのないよう密度を下げ、最後のとどめを撃つ方法を検討している段階である。
- ・ 科学防除等も試験中である。議会で、地域としての要望事項は出している。要望は続けていく。(小笠原村)
- ・ アノールの不妊化は難しい。被食昆虫を何万引きも飼育するのは大変であるのと、アノールは何度も交尾をするので、効果が薄い。今は、エサに毒をつけて撒くことを検討している。
- ・ アノールに注力するあまり、他の生物に対する被害が大きくなってはまずい。(環境省)

大河内委員長のコメント

- ・ ネズミは、農業だけでなく母島に多く残る固有陸産貝類にも影響を与える。母島へプラナリアの侵入があれば、小笠原は危機遺産になりかねない。琉球列島から直に土付き苗を導入するのは、できるだけ避けていただくか、事前に相談をしていただきたい。
- ・ プラナリアが入ると、農産物に被害を与える陸産貝類が減るとするのは幻想である。ウスカワマイマイは、プラナリアが入った後に入ってきたが、依然数が多い。
- ・ プラナリア、広東充血線虫が寄生している可能性があり、プラナリアの付着した葉物野菜を食べ、観光客が亡くなった例がある。気をつけてほしい。

平成 26 年度第 2 回村民意見交換会概要報告（父島）

今回の意見交換会は、村民対象の兄島視察会の報告を通じて世界遺産としての兄島の価値を説明した後、「遺産管理と村民生活との関わり」をテーマに関して行政側から取り組みの現状と課題を報告し、村民の皆様の意見をうかがいました。村民の皆様のご意見を、テーマごとに「主な意見・課題」と「行政機関の回答」として以下にまとめました。いただいたご意見は、今後開催される課題ワーキングの場でも取り上げ、議論の進捗および結果を随時村民の皆様へフィードバックしていく予定です。

1. 遺産管理と村民生活との関わりについて

■事業の進め方について

【主な意見・課題】

- 兄島における殺鼠剤散布事業は、科学委員会としても了承されてきたものである。科学委員会が専門家縦割りの体制であり、全体を見渡す議論ができてこなかったことが問題だと思う。今後、科学史や人文系の専門家を含めた委員構成としてはどうか。
- 事業を行うにあたっては、歴史に学び、旧島民や子どもも含め幅広い人々の意見をきいてほしい。
- 村の公共事業における環境配慮指針作成の進捗はどうか？東京都は去年の説明会で、「見直しを行う」と言われたが、まだ見直されていない。
- 昔はコウモリもネズミも悪さをしなかった。サトウキビ畑を燃やしていたので、ネズミは増えなかった。対策を行うにしても歴史に学んだ方がよい。
- 色々なことを新島民だけで決めていくのはおかしい。旧島民の島なのに、南島に行くことも規制されるし、我々が歩道を整備した初寝浦では枝打ちも禁止、閉鎖して入れなくしてしまった。山も自由に入れなくなった。子どもも含めた多くの村民を呼んで、意見を吸い上げてほしい。

【行政機関の回答】

- ・今後、村民の視点を交えた管理のあり方は、検討する必要があると認識している（環境省）。
- ・現在の科学委員は特定分野の専門家である。この専門家よりもさらに客観的視点をもった第 3 者の選定は難しいところがある。個別の専門的な知見が必要な問題、たとえば、殺鼠剤散布に関しては、環境リスク検証のための第 3 者委員会を設置して検証を行うなどの枠組みが考えられる。いずれにせよ、地域の課題の取組については、専門家含めて同じ現場を見た上で話をする場を設けることが重要だと考えている。（環境省）
- ・検証委員会のメンバーは、農薬、環境影響評価、環境リスク評価の専門家を選定すると聞いている。ネズミ対策に限らず、村民生活に影響するような事業については、おそらく検証委員会のような方式を、今後は取らざるを得ないかと思う。今後、村も国に要望していきたいと思う。（小笠原村）
- ・環境配慮指針については、マニュアルを作成し試行を実施している。必要な対策は適宜行っている。（東京都）
- ・村としての指針は作成していないが、東京都のマニュアルが完成すれば、それに準拠して取り組んでいくと思うが、いつから準じていくのかなどは、執行課に確認する。（小笠原村）

■農地と集落内のネズミ対策について

【主な意見・課題】

- 殺鼠剤を撒いていただいた畑では、以来ネズミが減っており、効果が出ていると感じる。ただ、時間が経つとまた出現する。殺鼠剤を食べる場所と食べない場所があり、場所による差も見られる。収穫期に被害が出なくなるか、今後も効果検証を継続していただきたい。
- ネズミの轢死体をカウントしていることを知らずに、各自で処理している村民も多い。「村道にあった死体は処理せず村役場に知らせる、都道にあった死体は各自処理してよい」ということを周知してほしい。
- 先日の雨でネズミの巣が流れたので河川付近でのネズミの目撃数は激減したが、自宅の近辺で激増した。河川を清掃すると生息地が周辺に移るだけである。
- 体力的に清掃が無理な場合や、ジャングルのような樹林帯に囲まれた家に対しては、補助を出していただけないか。

【行政機関の回答】

- ・ネズミの轢死体はゴミ収集の際に発見されれば、村の建設水道課に連絡が入り、回収に行っている。
(小笠原村)
- ・見逃された死骸があった場合、村役場に報告していただきたい。(小笠原村)
- ・都道に落ちていた死骸はカウントしていないので、各自埋める等処理をしていただいて構わない。
(東京都)
- ・都道・村道のネズミ轢死体については、対応や処理方法など整理して村民に周知する。(小笠原村)
※ネズミ轢死体のカウントは村道のみで行っているなど、都道・村道で対応が異なるため、整理してから周知を検討する。
- ・河川を清掃すると生息地が周辺に移ることについては、根本的な解決にはなっていないが、ご自分の管轄地の周辺は頻度高く清掃してほしい。(小笠原村)
- ・体力的に清掃が無理な場合や、ジャングルのような樹林帯に囲まれた家に対しては、対応を検討する。カゴ罠にかかった生きたネズミの処理は、母島でも要望があったが、対応が難しい。何でも行政でできるわけではないが、検討はしていきたい。(小笠原村)

■村民意見交換会について

【主な意見・課題】

- ドック中の開催では参加しにくい人もいるので、ドック明けに再度開催してほしい。
- 殺鼠剤に関する話もあったのに、農業者がこの場にいらしていない。農業者には別途説明しているのか？
- この場に議員が一人も出ていないのは問題だと思う。

【行政機関の回答】

- ・以前、ドック中の開催がよいと意見をいただいたため、今回はドック中に開催したが、平日なども含めて今後開催時期は事務局で検討したい。また、数多く開催したほうが良いとは考えている。(小笠原村)

- ・今後、声かけ、周知方法を工夫したい。(小笠原村)

■樹木の病害虫対策について

【主な意見】

- 沿道のアカギ（例えば、消防署の後方の三角公園そばの木）が、カイガラムシで真っ黒になっている。対策は行われているか？カイガラムシは、レモン等柑橘全般に被害をもたらす、景観としてもよくないので対応してほしい。農業センターは何も対応していないのではないか。研究を行ってほしい。
- 林内も今は外来樹や病害虫被害にあった樹木だらけで、とても世界遺産とはいえない状況である。山に水が少なくなったことも原因かもしれない。昔は10種類以上食べられる果実等があったが、様変わりしてしまった。

【行政機関の回答】

- ・農業センターの対策については、確認する。(東京都)
- ・樹木の病害虫といった自然界のものが農地内に影響を与えるのであれば、土地の管理者や遺産事務局と自然界の処理について何ができるか考えてみたい。(小笠原村)

2. 遺産関連施設について

【主な意見】

- 遺産センターの場所選定は、津波のことを考えていないだろう。西ノ島新島の火山活動も活発になっており、津波の危険性は高まっているので、再考いただきたい。
- 自然遺産を見に来た観光客は、雨の場合行く場所がなく、遺産の価値がなんだかわからないままになってしまう。村のためにも、わざわざ外国から来た人のためにも、遺産の価値を簡単に見せられる施設が必要ではないか。
- 観光ガイドのガイド内容を見直す必要があると思う。歴史に関する話をしないのは問題である。

【行政機関の回答】

- ・遺産センターは、保全対象種を見ながら遺産の価値や対策・管理の在り方を考えられる場としたいし、雨天時などの学生の勉強の場としてプログラムを作りたいと思う。(環境省)
- ・村としてもできることを考えていきたい。(小笠原村)

平成 26 年度第 2 回村民意見交換会概要報告（母島）

今回の意見交換会は、「ネズミ対策」をテーマに行政側から取り組みの現状と課題を報告した後、村民の皆様の意見をうかがいました。議論の内容を、テーマごとに「主な意見・課題」と「行政機関の対応」として以下にまとめました。いただいたご意見は、今後開催される課題ワーキングの場で取り上げ、議論の進捗および結果を随時村民の皆様へフィードバックしていく予定です。

1. 外来ネズミ対策について

■ 兄島のネズミ対策事業の顛末について

【主な意見・課題】

- 毒餌を食べたネズミを食べたネコが具合が悪くなるのは聞いたことがあるが、ノスリや、鳥類などへの影響の検証は行うのか。海洋生物への影響も想定されるなら、説明にあたっては漁協への声かけも必要ではないか。
- 母島はメグロが罾に混獲されるので、同じ方法は使えないのではないか。
- オガサワラカワラヒワの調査は実施されているか？ 渡ってくる個体数が減っていると思うので、ネズミ駆除を急いでほしい。国有林課において、姉島のカワラヒワの現状を調査してほしい。
- 南島のベイトステーションは、わざわざ人員とお金をかけて撤去しなくてもよいのではないか。

【行政機関の回答】

- ・ 他の生物への影響は、特に、生物濃縮に関する話題は、重要な検証事項と認識している。陸域だけでなく、海域も検証の対象となる。
- ・ 行政事業については、他の生物を含めた自然界への影響の実証データが揃い安全性が検証できるまで、自然界に広く散布することは見合わせとする（海洋や、天然記念物のオカヤドカリなどへの影響に関する実証データがなく、言葉で説明するだけでは不十分と考えるため）。ただしネズミによる被害も喫緊の課題なので、環境省で検証作業は早急に行う予定である。（小笠原村）
- ・ 科学委員もこの問題を重く受け止めており、地域の方の不安・疑問に科学者として応えたいとのことである。本会以外にも意見交換の場を設け、専門家の意見もうかがいながらコミュニケーションをしていきたい。（環境省）
- ・ 母島の属島において、カワラヒワ、陸産貝類へのネズミによる被害が出ている状況は認識しており、引き続き、調査を行いながら、必要な手を打ちたい。（環境省）
- ・ 兄島では、ネズミワナ等様々な方法を試しており、効果が出れば、皆さんにお伝えする。得られた知見には、母島本島におけるネズミ対策などに活用できればと思う。（環境省）
- ・ 南島のベイトステーションについては、殺鼠剤を使用する事業に関し、村民の皆様にご説明することなく実施してきたこと、安全性の説明数値が間違っていたことを重く受け止め、一旦は撤去する。（東京都）

■農地と集落内のネズミ対策について

【主な意見・課題】

- 議題に深く関わる関係者との話し合いの機会を別途作っていただきたい。農地のネズミ対策に関してならば農業者が集まる場で話してはどうか。個別ヒアリングの方が意見を率直に述べられるのでよい。
- 空き地が多いこともネズミ生息の温床になっている。河川清掃等、適切な処置を行っていただきたい。
- 殺鼠剤を撒くと、集落地で死骸の腐敗臭がするのでよくない。カゴ罠で捕獲したとしても、殺生に抵抗があるので、役場で処置していただけないか。
- ドブネズミの対策も同時に進めてほしい。
- 現状使用している殺鼠剤よりさらに効果の高い薬もあるそうだが、それに対して殺鼠剤購入費補助がなされる可能性はあるのか。
- ネズミも、活発に動く時期とそうでない時期があるので、活発でない時期のデータだけに基づいて判断するのではなく、年間を通じて対策効果を検証いただきたい。

【行政機関の回答】

- ・ 農地周りからのネズミ流入低減試験を父島の農家で行った。農地周辺にベイトステーションを設置して対策実施前後の被害状況を比較したところ、対策の効果が認められた。次年度以降の母島での実施を含め、事業化も検討してみたい。(小笠原村)
- ・ 父島では、みのり会で説明した際にたくさんの意見をいただいた。母島でも同様の場を設けたいとは思っているので産業観光課に相談してみたい。ネズミに関しては農家と直接話をする機会を設けたいとは思っている。(小笠原村)
- ・ 父島では、農地におけるネズミ対策の優良事例勉強会を実施した。母島での実施は、今後検討していきたい。(東京都)
- ・ いただいた意見を役場内で共有し、実現可能な対策を検討したい。カゴ罠の貸し出しについては、以前も案が出たが、後の処理ができないので使いにくいとの意見があり、立ち消えとなった。(小笠原村)
- ・ 農薬登録されていない薬剤は、農地での使用は禁止されている。より強力な殺鼠剤に対する補助については、産業観光課に相談する。(小笠原村)
- ・ 効果の持続期間の検証は年間を通じてやってみたい。また、事業でどう展開するのか考えていきたい。(小笠原村)

2. 村民意見交換会について

【主な意見・課題】

- 本会の趣旨がよくわからない。
- ドック中は参加しにくい人もいるので、想定する対象者を変えて複数回開催しては。
- テーマに深く関わる村民に個別に声をかけたり、個別ヒアリングを行う等してほしい。
- 意見が科学委員会に届いた後の対応が知りたい。オンラインのツール等も活用し、ダイレクトなフィードバックがほしい。

【行政機関の回答】

- ・ 主に世界遺産と村民生活との接点に関連した行政事業の実施状況を説明した上で、村民の声を聞き、それを事業へ活かす目的で開催している。今後は、開催時期・周知方法を十分に工夫したい。(小笠原村)
- ・ 対策を進めるにあたっては、村民の皆様との合意形成が重要になるので、方法論を含め事務局内で検討していきたい。(小笠原村)
- ・ 本会でいただいた意見は、地域連絡会議での報告を経て科学委員会に届く。フィードバックの方法を検討したい。(小笠原村)
- ・ こうした意見交換の場があったからこそ、殺鼠剤毒性情報に関する間違いにも気づけた。村民との対話の場を大切に扱っていききたいと思う。(環境省)

3. その他

■メグロ・アカガシラカラスバトについて

【主な意見】

- メグロやアカガシラカラスバトは世界遺産の魅力向上にも資するものである。保護の手立てや飼育施設の建設等も検討してほしい。

【行政機関の回答】

- ・ 現物を見る体験は重要と認識している。(環境省)
- ・ 天然記念物の移動は難しい他、保護対象の動物を籠内に入れて飼育することに抵抗を覚える方もいるので、難しい問題である。(小笠原村)